

**入場
無料**

Colors, Future!
色を彩って、未来。
川崎市

**COLORS
FUTURE!
ACTIONS**
KAWASAKI 100th

防空偽装された市役所

【川崎市市制 100 周年記念事業】川崎大空襲の戦災写真をカラー化しました。

戦後 80 年 川崎大空襲記録展 戦時下の市民生活と川崎大空襲

開催期間：令和 7 年 3 月 8 日(土)～ 5 月 6 日(火)

開催時間：午前 9 時～午後 5 時

会場：川崎市平和館 1 階 屋内広場

休館日：月曜日、3 月 18 日(火)、4 月 16 日(水)。

ただし 5 月 5 日(月)は開館。

公文書館展示：アジア・太平洋戦争期の世界・日本・川崎

オープニングイベント

参加費無料 申込不要 定員 250 人

・ 3 月 8 日(土) 午後 1 時 30 分～

・ 川崎市平和館 1 階 屋内広場

①「親子平和推進事業」

中学生が平和について学び、考えたことを発表します。

②「戦争体験を語る・聞く」

川崎大空襲の体験者から当時のお話を聞きます。

【主催】川崎市

【協力】公文書館、世田谷区立平和資料館、川崎中原の空襲・戦災を記録する会、工藤洋三

【問合せ】川崎市平和館 電話 044-433-0171



(左) 多摩川下流の惨状
(中) 六郷橋付近の焼け跡
(右) 市役所3階から明治産業方面を見る

戦前、川崎市では重化学工業を中心とした産業が発展し、軍需生産においても重要な役割を果たしていました。そのため、川崎市は空襲の攻撃目標とされました。

「川崎大空襲」と呼ばれる昭和20(1945)年4月15日の空襲では、B-29爆撃機194機が来襲し、
しょういだん 焼夷弾 12,748 発 (1,072 トン)、こうせいのうばくだん 高性能爆弾 72 発 (18 トン)、はさいせいばくだん 破砕性爆弾 98 発 (20 トン) が投下されました。

この大空襲によって、川崎市の中心部は市役所などを残して一面の焼野原となってしまいました。その被害は、全半焼壊家屋 33,361 戸、同工場等 287、^{りさいしゃ}罹災者は 10 万人を超えました。また、川崎市が空襲で出した死者約 1,000 人、負傷者約 15,000 人の大半は、この大空襲によるものとみられます。

令和7(2025)年は終戦から80年を迎える節目の年に当たります。今年の川崎大空襲記録展では、80年前に起こった「川崎大空襲」を解説するとともに、終戦で終わった「学童疎開」や、終戦から始まった「混乱と復興」について、写真や絵、実物資料などにより紹介します。ご来館の皆さまに平和と戦争を考える機会としていただければ幸いです。

『川崎市平和館』

【住 所】 川崎市中原区木月住吉町33-1

【電 話】 044-433-0171

【FAX】 044-433-0232

【交 通】 JR線・東急線「武蔵小杉駅」、
東急線「元住吉駅」から徒歩約10分

※駐車場が狭いため、公共交通機関を御利用ください。

